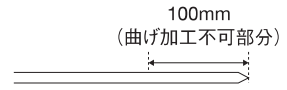


⚠️ 取扱い、取付上のご注意

温度センサを正しく安全にご使用していただくため、下記の注意事項を必ずお守りください。

なお、測定に際してはJIS Z8704（温度測定方法－電気的方法）に準じて測定を行ってください。

	熱電対	測温抵抗体
取扱い・取付上のご注意	●振動・衝撃を与えないようお取扱いにご注意ください。断線や破損の原因となる場合があります。	
	●挿入長が短いと測定誤差が発生します。 挿入長は、測定対象、材質、外径などの条件によって異なりますが、目安は下記の通りです。	
	挿入長：外径の15～20倍以上	挿入長：外径の20～30倍以上
	●φ0.5mm以下のシース熱電対で、シース部分を伸ばして直線にする時、爪や指で強くこすらないでください。 強くこするとシース部分が伸びて断線したり、大きな誤差を生じることがあります。布などで抑えて巻きと逆方向に徐々に直線に伸ばしてください。	●シース抵抗体は先端部分に抵抗素子が入っています。先端から100mmの部分は曲げないでください。先端100mm部分を曲げると断線、短絡することがあります。 
配線時の注意	●ヘッドレス形の場合、導線接続部分近辺で曲げたり、強く引っ張らないでください。断線や短絡のおそれがあります。	
	●ヘッドレス形導線接続部分の耐熱温度は、ビニル接続導線は80℃以下、ガラス被覆接続導線は150℃以下でご使用ください。 上記温度以上になると充填樹脂の劣化により、断線、短絡、絶縁不良が発生します。	
	●端子箱タイプの場合、端子箱部分は80℃以下でご使用ください。 上記温度以上になるとゴムパッキンの焼損や絶縁不良が発生します。	
	●端子箱タイプの場合、取付け時や設置後に端子箱のみを回さないでください。断線や短絡のおそれがあります。必ず保護管を持って端子箱位置の調整を行ってください。	
その他の注意	●シースタイプで曲げ加工を行う際の曲げ半径は、シース外径がφ3.2以下の場合にはシース外径の3倍以上、シース外径がφ4.8以上の場合にはシース外径の2倍以上にしてください。 また、曲げ加工を行った部分を直線に戻したり、同じ部位で繰り返して曲げないでください。断線したり、シース部分にクラック（ひび）が入り絶縁不良の原因となります。 弊社の場合、下記曲げ半径で加工いたします。 φ3.2以下：10R、φ4.8：12R、φ6.4：15R、φ8：20R、φ10・φ12・φ15：30R、φ22：50R	
	●ニップル・フランジなどのアクセサリ付きのセンサを取付ける場合、緩みがないように確実に取付けてください。取付けが不十分の場合、振動などにより断線したり、破損することがあります。	
	●非金属保護管（セラミック、ガラスなど）の場合、保護管部分を持って持ち上げたり、保護管部分に曲げなどの力が加わらないようにお取扱いください。破損する場合があります。	
	●非金属保護管（セラミック、ガラスなど）の場合、いわゆる「サーマルショック」（急激な周囲温度変化による熱衝撃）を与えないようしてください。破損する場合がありますので、高温炉に挿入する場合は徐々に挿入し、高温炉から取り出す場合はゆっくり取り出してください。	
その他の注意	●ガラス被覆補償導線は水に濡れたり、結露する環境では使用しないでください。 ●極細シース熱電対の場合は高抵抗のため、計器の許容信号源抵抗に注意してください。	●測温抵抗体の規定電流は、計器側指定の規定電流と同一にしてください。
	●端子箱と計器または変換器までの配線は、必ず熱電対の種類と同一の補償導線をご使用ください。 ●配線時は極性（+）（-）にご注意ください。 ●補償導線を長くする場合は、計器の許容信号源抵抗以内でご使用ください。	●端子箱と計器または変換器までの配線は、必ず測温抵抗体用接続導線をご使用ください。 ●配線はセンサ側のA、B、B端子を計器側のA、B、B端子に配線してください。 ●接続導線を長くする場合は、計器の許容信号源抵抗以内でご使用ください。
その他の注意	●配線後、各端子の増し締めを行いネジの緩みがないようにしてください。 ●補償導線、測温抵抗体用接続導線は、電源線と束ねたり並行させたりしないでください。 ●電磁誘導、ノイズなどの恐れがある場合はシールド付の補償導線・抵抗体用接続導線を使用してください。	
	●温度センサは定期的に点検を実施して、端子部分の緩み、保護管の腐食、破損状況、絶縁抵抗などの確認を行ってください。 ●温度センサの精度を維持するためには定期的に校正を行ってください。 弊社は温度計校正機関の認定事業者として国家認定を取得し、温度計の依頼校正試験業務を行っています。弊社営業所へご相談ください。 ●温度センサを保管する場合、高湿度や結露する雰囲気では保管しないでください。濡れたり結露した場合、絶縁不良となります。	